

次世代人工知能・ロボット中核技術開発

令和2年度予算案額 **50.0億円** (48.7億円)

事業の内容

事業目的・概要

- 少子高齢化により生産年齢人口が減少する中、産業競争力を強化し、顕在化する様々な社会課題を解決するキーテクノロジーであるAI技術を実世界のすみずみまで実装させていくために必要となる次世代AI基盤技術開発に取り組みます。
- 具体的には、人間と協調できるAI、実世界で信頼できるAI、容易に構築・導入できるAIに関する技術開発を行い、AIの性能だけでなく人間の知恵も共に進化する社会を目指します。
- また、「生産性」、「健康、医療・介護」、「空間の移動」分野において、AI技術や、AI技術とロボット技術を融合させた研究開発成果の社会実装を目指した、産学官連携での大規模研究開発を実施します。

成果目標

- 次世代AI基盤技術開発は、令和2～6年度までの5年間の事業であり、令和2年度には新たな研究テーマを採択して基盤的研究に取り組み、令和6年度末には、本事業の研究成果を活用した開発研究の着手率25%を目指します。
- 社会実装を目指した産学官連携での大規模研究開発は、平成30年度～令和4年度までの5年間の事業であり、令和2年度には本格実証研究に着手し、令和5年度には本事業の成果を活用したAI技術の3件以上の社会実装を目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

(1) 次世代AI基盤技術開発

AI技術を実世界に広く浸透させるために必要となる高度な基盤技術開発を実施。

<人間と協調できるAI>

- ・ 学習・推論結果を説明できるAI
- ・ 人とAIの対話等により相互学習を可能にする技術、等

<実世界で信頼できるAI>

- ・ AIの品質の評価手法や、マネジメント手法の開発、等

<容易に構築・導入できるAI>

- ・ 大規模データで学習させた汎用性の高い学習済モデルの構築
- ・ 要素機能モジュールを容易に構築・拡張する技術、等



(2) 社会実装を目指した、産学官連携での大規模研究開発

- 「生産性」、「健康、医療・介護」、「空間の移動」分野において、AI技術や、AI技術とロボット技術を融合させた研究開発成果の社会実装を目指した、産学官連携での大規模研究開発を実施。

【生産性】
(例)農作物の需給予測



【健康、医療・介護】
(例)病気の発症予測



【空間の移動】
(例)交通信号制御の高度化

